



911.31
Ka15k
2

中村俊定
No. 74



納豆の福くふまづる糸柳

同

くこの意母のらや柳髪

同

親高とつくと柳や海玉腰

同

風ぬらこましくや老木は糸柳

同

まゑ

形ふは流たのゆかなるや面林

友若

まゑと親そそ若れじと子哉

紀所

貞好

まゑもあつしとさくやと舟

盛賢



1060

10050

作保姫の志しくありやまはる

長瀬元

松乃緑付 表花

老松もかりや十八乃みしつ

姫松のきけりさめさけの緑

たつ尾のり松らちるもり花

うづの松やあひ子れもみ花

まつくわらや虫糸と松の緑

松のまきの子とあいまの緑花

姫松の緑や常盤のもり花

松のひもみと子れもみ花

松花

為む枝母と入り咲や松の花

本目

露の玉いすむ本花目のつ子

本乃目さへはつりそやあの家

互妻の本すゑやあひもみ花

貞好

玄徳

正徳

未得

貞房

重勝

表のやうし本枝のくけり

表のまきうんきそまぬ本の

花の具と目ませとまらひ柳

孫起るや楓母目とまらひ柳

表のれ目色とまらひ枯木

まらひ本枝のまきやまらひ

本のわけてまらひ本枝の

花の種と目まきと本目の

種まき本枝の花のけり

人の目も本枝のまらひ

苗まらひ本枝のまらひ

表の山つき本枝の

本枝目まき人のまらひ

本のまき出まらひ

花の枝のまらひ

皮のまらひ

未得

満成

政信

保友

孝家

正儀

長院

円

左様

任因

栴山

徳母

五葉村

=

一〇

棧

白玉の何そとく人のあつ棧
花を火とさつと棧のあつか
花さけいのるや珠救の玉棧
小棧のたるれとまはちりけ
まそみよわあえ笠ちりけせ棧
いおとみ花もよらふや保珠棧
白うけとくふの矢落つてもき

あそくわむけけい白保珠棧
へらわ釣舟よとくあふたき
目向てもそとくわらつせ棧
八子代暖や巻て下和う玉棧
花の救や子顆百顆の玉棧
ちよきつ朝日と丸や玉つたき
花乃ちらまやこちくせ玉はき
咲てほらわくと成やちり棧

花入の口包み川のあつらふとき
そくろくも流もも半此玉棧
本母竹と流けりたがう新棧
流き分此棧の花やみりん一
西の又みり子をまきやいせ棧

返若

ぬやさうしと袖も色落より棧
美母流のちもよら棧餅

花籠も志やんとさせし棧
たのわりそ嘆の糸玉棧
花の露や油も氷の玉流はき
新女もや佛もさうく玉棧
まきくあ花りも半此玉棧
奇れうも咳や夜の玉つとき
とろりもせよ珠砲れも棧
かさ花や乞へみらの玉棧

保友
如負
利政
林麻
定之
良和
正勝

伊師

花はえきけつみまもたむしん

一系

あつとさきと花むひのむら

棧

友我

清緑の棧の和まんのちりり

棧

友好

花むしひむやむしきのちりり

棧

定房

みけ子たいろはよほんとちりり

棧

重久

流きよけの棧と

まーつるらちるやぬ湯のちりり

棧

正弘

掃たぬ花や山姥ちりり

棧

合成

いあはふかひちりめらとわり

棧

伊良

花毎むけやもさけやぶ

棧

實友

ふり咲の花や合浦の珠

棧

時之

えわらむやぬか惱乃わつ

棧

志之

庭あらの橋とさくひん

ていひけし

篇をなつ棧とさくし表は庭

時之

棧の花とわら

月夜の気もさうく秋の場を

同

為さるやせりて泣らん志の棧

信安

嘆きの赤い海老の俣の棧

盛庸

飛入のわさこいんゆを棧の那

重成

嘆ぬるいけよまらけそ大ははき

清心

本立ちやせん金の金つとさき

助喜

東の山門に紅葉の舎より

うし山産物へけりけきり

ゆりせきる花も花入の玉椿

長秋

花入の口よりさくやたまの棧

同

我しわくとらみくさゆや赤

同

炊りんやうさく棧のう

まひみ棧と赤み生きり

比し色八重成けきり

比色今八せんさいの流もか

同

烟杓

烟打のこ織ぬのたぐ料外

きんせ村長
重俊

角紐芦

取し栲漚のくじい草紐式

貞好

角紐し草や難波のまの鎌

政信

角やきて草の角紐し草

徳田格介
送也

角くじや草乃葉木のりか

大坂聖三
正次

角紐や難波の三つ草草入

奥加
友三

角和布

角和布と付くまの草の

のつまへし角和布や草の

大漁みろへ角和布は草の

信

角和布の汁と出さる

汁の子そとと出さる

長

土筆

一の草みま草んさの草土筆

土筆賣やとる魚の町くり

志んち此の事つらありて志ん
去りてさうりま今いまきかか
流三つ目入るれりゆと去り
去り有世の志んり下り
去り摘奪人世とよと記る外
とやせむはた教の志んは
佐保姫の志ん草や去り
さうりへり子記るゆとく

志んち本の名い二と此の事
勅筆の大内山乃はく

外 志ん
保友

唐筆つとゆつての事

尾所 志ん

誰の若母種と前事

行相 政辰

事めてらんふもくじや

良保

りる事つとゆつての事

紀列 志ん
再凡

去の事深じしすり

一南

事つとゆつての事

志ん
重初

らんひらつてはくみ出らたまふ
素心水若水
おぼつとある人おしこは土草
土草
夕好
貞則

遊書

とけいじやうとるるはく
不盈

てゆまの親いぬるたまふ
徳念行
秋意

元類やみくゆいしゆまの草
長記

きよひらつてはく
同

得せお樂し

たまふ中てかえきや繪たまふ
同

九列のくや日とまりはく
同

蕨

と日ひらつてはく
口
蕨

籠おのひまはく
ら

わつてはく
はく

おのひらつてはく
ら

おのひらつてはく
ら

ねとくうくわいのちるふさし蕨が
 切まじいよとほくひのころ蕨
 のまわりと蕨やあめりかひ道
 蕨はあつくととらつた若れは
 むふゆやんよとめさる蕨縄
 傷まもつらやんものひき蕨
 むきよめて漢書つし蕨
 我しほとるつる蕨はよるふさ

小らたよまき梅の下竹心
 うつろこ川も花乃下蕨
 布なすて蕨も織つるおれ
 ふてよびつらな岩間のうき蕨
 くとるよとわの焼花は蕨のよ
 山守とよわらあくとれまひ
 藪者よめよとわくふわつて
 恙もつとあへんあ近蕨外

友若 貞好

友若 保左

同

此列ははつた

由吉

大坂府七石

重貞

友若

夕紅

たみ長のともわせ前出の初蕨

吉任

あつ法くくのみおけりまきつる蕨哉

政辰

蕨とわ入書てくくへまきる蕨

吉任

徳野おてもまきお打やひき蕨

一明

ふれ品とたつ思尾の下わひ

俊秀

肩せんとまじり思尾は蕨のよ

長昌

けり此の元やううくの輪まひ

通保

雪ひみおぬよふおひるわ元

政信

若らりも冬今の蕨はひんか

吉之

前出うとけりおんおすうわ元

吉奉

蕨もやあそらうまきまき出

玄樞

のけりふ乃ちうのちお蕨うま

重治

首湯よまきあつ蕨やひりま

吉丸

蕨多きしよおまきあつせひ兼門

同

やせらうのちとくひり蕨は

同

よとたもあつうの花は蕨

同

二三

吉任

吉任

吉奉

玄樞

重治

吉丸

兼門

蕨は

花は蕨

十三

百足より蕨子多し〜海山 曰
上人の蕨子のせし志は海山 曰

朧月

いもよとまろ〜朧月 海山をる 友我

朧月夜新と朝や〜朧月 この書は 良勝

朧月の内約のか〜朧月 本善なる 若庸

子金との人〜朧月 左和鈴本 良保

横〜其ま〜幕〜朧月 信安

文字此あり白〜朧月 書 云次

朧月の桂男やく〜朧月 書 言成

あ〜物や内約の〜朧月 真名 本三

月〜い〜け〜朧月 新粉川 未保

朧月す〜て約〜朧月 尾砂 舎六

酒〜か〜ん〜朧月 尾砂 長盛

花

な〜ら〜や〜あ〜なら〜花 の書

為母さうぬ花や親めし不孝の

遊書

ゆふの浄土のまはれたらんか

折雲歌奇しと

まはれたらんかゆふの浄土か

そしてみゆふのつむあうゆ

花とるたきさるまはらの親

背ふゆや地もろ花のハミ

幾度もさうたきん物や花の

花のあやあさうみまはるの

連舟仰るゆとつ竹んを

あつ奇めと

まはれたらんかゆふの浄土か

まはれたらんかゆふの浄土か

花の下ゆふとつゆふの

まはれたらんかゆふの浄土か

科の何れとけりしは西の

高野一具の時

花の名とわかちや海身不切坂
あふ花さく志川をい流る花
寐考た花の波と志し孫亦
花の名は赤梅檀の秋迎は志
川の源の波不うや花はいこ
風の勢ら花は鐘の札を折

花軍佛をともるや三具足

むの下むじさこともあやせし

むくの流をいふ海少く流る

高野の燈火

花を花は花はまよるやせしんこ
花はあさにくとせしころや糸柳
花はあさく唯をめくく流の流
花を花は酔からあきのみこ

高野めえ

花を火とさよふ茶煎かむ

若野めえ

うねるえ皆花めりえ若野
花の川ながしめすうらみ花
出わゆるく花邊人よまを
火とさよふ花の波烟うす
ち心盛る涙をち花の流

紀別めえ

花め花の挽波書あり新加

初瀬めえ

花やあて梅いらぬらん初瀬
うらまは花も自らもり
花の流とゆくまはあ
花め花ちりくまはあ
ふ花めえ

お花も花を捨てる心も人ま
遍照の花は帽子の花頂山
垂家とらんて落るる花軍

中子と結屋みえ

あつと花の白ひやき耐結
なさいもやきてつるのち花結
我と花のぬい負報ゆりまか
陰ぬやとりふらや一樹の花は緑

風やきくさ花はちりせと末の
春野川にせまのこる花はこ
お花のちと花もくうか
お母の親子いさうし家外
おみやじんや河の花りこ
おらの波うお月の雲り志
咲花も花様のうけうくら
うと結屋とせくちくら花

まけくと新ふ上戸の花つる赤
うらまわん橋くさる花さくら

あつちつちわさよ國のむらり

三結寺の花と

とやく枝きんうら花さくら

体の花と

是そ穉みみうらうんのふれん

我もくまけと咲や花軍

花さうりそれいひのさき

むとうんていあくおむ日足

方しり色ゆさうま葉のたはひ

花の形やいさくはと此為假粧

作り垂し一ちまやまは花島

むくいこあめかけあけりかひか

あなけう花や路のくちらとや

若此時風や花と味方うら

鞍馬のむとみく

まのこと家母候もや天物花

彈正と云祿宣のありて

さくらちりよ彈正殿の花は花

蘭麝待白ひや花母表白山

むやちむび大原山の雲は帯

雲をさかさまて出よ花の香

三月の雲細とるぬむりや

花母風候ぬい草野志川か

祿宣のむかひゆや浮花

ゆもむさく此鞠とけく海山

さぬまのあんなの花はさうり

ふゆの花々くちるとせ阿摩良

志山乃表やさちう花のまん

剛母表花の絆地乃あさか

いけんたのわ花むんの邊外

道場のむやふりるるり
若ととけ花と湯く家々
みみじふふと地をむ
美の夜月花方や松果報
さけいんぬと向りむ花
若めぬ花やけりむ花
花みよと花んとそむ花
大雲の花めらむ花

もろとさくらさくらさくら
みまの布川さしや花の
花のつんば字や流く花山
仁志もや熱とささん花乃風
花の雪人の木めからむ
むみめいさくやさしてむ
千句末三花

むらさき花とさしむ花

かゝるあはうのありてはなれば
うららさくあかみさるを
跡の冷し虎うそゆか花は雪
月 月 月

古今傳受仕ゆり時長頼此

とあ冷し

花は波着よけりあふふこそり 忠告 道長
若耶山咲ちり花や盛衰記 月

探幽は眼吉野花は人の時

かうきんはまの花はえや 山 月
双六うおみこはむのさし 山 良和
見えぬくわわそふれまの花 山 月
折句え皆冠まき 山

あはれしきまものいまは花は 山 盛斎
花は水のお花やう 山 月
坂の上は奇なるやこれの花 伊勢 平兵衛 正賢
花の影をゆかえ赤し 山 月

花の海似たり下り方行く

歌聖大徳吉長

正徳

けしれやあは夜花了ゆを

歌聖大徳吉長

正徳

見ゆ花をさきすりわ

長徳平集

同

ふゆの花なく可也ななくは

定利

詩とほは今山谷の花より

同

高妙と

たうまき花あのおえも朽んむ

正徳

むのちこころりあうりな

徳山集

正徳

金鏡奇ゆく

山ちや花ちり木の本残り

大徳海吉長

安徳

花のよもいよしてはめり花

同

あはれはあはれりあはれ

同

きよきゆくそをよと花

同

花くぬるふり新や花はく

同

花の風といのまうんたる

信田

政信

やうあはれしや花の葉肉去

同

二

三

花咲の香うつり木の野山式 増信齋 安之

ひまわりをむしらうんり花の白竹 利政

園の秋は波ち花乃さくらむ 秋原

花とみち目や正身此生佛 正辰

たぐ花のちうーめさこも花の浪 英昌

みゆのうーろ花やちり付と 未得

るゆ咲て親みゆりも花は雪 月

山く船のかりもうさり花は露 月

ちりゆいしやぶさうらまはる花 月

藤ののり

ゆきまよとさなむじきなまもま長秋 之貞

宵平はくせんさ楽の花は 正長

勢ゆちも風やねん花くこ 繁秋

山くへいさみゆりけう花の波 一滴

清くもせがそけくやうれ花盛 月

あんまらひさる花のこり 則重

花の漣やうきまて志く親の
良勝

親あつてまて云あて

あやうそ嘆けら花や親あて
康耳

花のあり目の佛もわわて
日

た乃ちやうくまきりな鈴の具四
日

山を海や成とりきん花北波
日

大海うちりひら北山う花の漣
加友

大海をちりひら北山う花の漣
日

ひととてうきふ人のと

とく

花あは親の雨あつく泪が
日

うかりあは花もて志まや
日

花みけありや老木の花のあ
日

花籠みしけそりあまらや花
日

花園の志賀とまてうわ
日

花をうきて花の漣もや
日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

目母のふむや稗のふむ此家 宗純

夏成と南行の花や咲屋姫 一成

佐保姫の九花乃様久八重 定重

みろや佛極らく仲の花盛 同

ふみうこま風のふゆや花軍 同

わけるま風を花もや二重 宗信

天物ありて咲花は名も花山 宗佳

花の細志も美しくやかつ花 元成

きんけりて方やうけの清花 元元

花身も下戸ありぬう一男 尾別村

のくさくさ花の似せぬ花の情 宗信

まゆみく花をひもけは花 道保

情もひがく花のまひ花 一治

むいさく花をひらく花 一井

短人れうしてさよあを花 宗知

あめいもあをさうらん花 之賢

大後任

深江元成

山内宗信

漢國景明七集

尾別村

概別苗田宗信

日奈久松

江ノ内

南都

山南

なまらわ同のてりおの花じり
福井六兵衛
清之

花の浪ちし浪線なごりたふ
同

清乃花も咲つらんさふ此まふ
同

花山母も牛はさく花見車
行相清乃
良保

花若くもふもわな同のお
尾崎中三郎
好乃

寺母結して

今更んも花やうとせ親師
友宣

清の花もあつた勢もたら
元晴

う花も色目すこいかに花
宗壺

あつたや何世親師の花の名
友新

子供此卒都染流しの花
同

みそれあつたひまの花も子
一元

咲つらんじりうんたさうも花の
一明

あつたくくつらんとあ花は
好乃

二母あつた花もえ笑ぬ二母
定時

あつた野川の花もええ
友我

花道と為座の心より

草也

三妻のやく病のうき花は

好永

見物かよふ花乃さるりか

正朝

珍み成てれからん物やむは

賢之

赤白の源氏平家りもる軍

青昌

花むか風いよふは其氣る

同

老の人の稗ありきつと月花

同

八原みき次九皇は花母か

之忠

ゆりちうしむとみく

花やびり一氣中物の男山

長尾長外

後定

毎々帯ちりきく花乃わ州

不詳

あて花かわあや風の林

徳川園守

南枝先じよふや花のうし方

政次

好山せよ身かあさうと花

一頁

醍醐の巻一見あく

午の耐花の波をなす

中次

長次

咲ちりや天満次才花のぬ
 三月の花の雪ちり師走か
 鹿こ此舞や花奇とまふ山
 風子馬の舞よあやうら花
 土性胸や約志花もこを
 人目みぬや地の内まの花ん
 為花んて悟あやちり此世
 深くち連わさるねるひの花

野次郎 玄哉
津江 伝元
約り
素久津 貞成
那加 正貴
新 正世
中 貞直
好 一親

道ハ天かありて花らる花
 永日足花か一寸法師ら
 水か花友や浮舟浪のあや
 連袂もあときまへら花枝
 花らうらわらや吉野此後見
 約なきといそく院の花ん非
 田舎あふれまのむわのま
 花を人もきせらとふら花

徳方 如世
素久山 昌長
佐 時之
江 貞成
津 伝元
田 貞直
大 貞成
定 貞成

出入の息や心のなるはく留

龍川三山歌之

矢野

ちとあはれもくんの泣のた

荒尾留永治

燕石子

花おみんまふやあんくら着

越後新守

幸甫

花よのこころ天のちとくそ太声

日向中村信忠

好柏

天王奇母て

大坂信濃村の鳥

嘆ぬんまのそく一本は花もが

秋次

花のえみあは縮の表りて

良忠

花はちとくあんとこれ風六種

勝右

あな花いこの毒蛇うじあぢか

小田井公頼

定信

あふんいせん嘆漸壺舟花は浪

増田徳方妻

伴常

花も火とともせ木陰のくま

龍川三山歌之

一之

花の病拂ふるあまはせん道

大坂うめ奇

夕霧

花の下あそりそ産若作沙

曰

花の白ひ綾めもくもる麝香

長

曰

花や折あられぬわうや朱槿

花

曰

めとけりよあつくとをき絶の

花

曰

善也曰人法ははふはむら

同

花の多のふりしりく鈴麻山

同

あふや花とあふじとふと

如白

花もあふり人袋は月を亦

同

化花といふは師の演法

同

花もあふり心花は雨は

同

入道に大れりよとやふ花は

白岩

九重母ささきて花や初志也

宗貞

志賀とて

かきんふよ一二三志賀はむ

不盈

さしといふはあ花の志賀

寄安

花見酒杜康もいふ本陰

合成

梅念寺といふ寺とて花

のあともく

花とてんて中じや道程せ

身代

冥夜もろやちむいふあ花の枝

同

南部江紅雲正集

梅念

花の枝

花のまじりたるうららかなる白糸

江戸江村の白糸

純川江

秀吉

花のわらわぬるよの本ね風は

依友

忠治

咲てぬ花のわらわぬる念志

離

依友

栄甫

花のまじりたるうららかなる

同

念志奇めて

ちりりも積りし雲はたろお花

大坂江村の白糸

保友

花のまじりたるうららかなる

の毎

林儀

小棚も花を生けり

生花や棚よりうららかなる

寺田江村

体世

花のまじりたるうららかなる

毛承

梅盛

葉の富士は雲や花の幕は

依友

同

三春野の花もまじりたる

娘の

義成

母のまじりたるうららかなる

依友

政次

富士の雲は花をわらわぬる

近重

念志奇めて

ゆき枝のまじりたるうららかなる

京河川

重治

本丸のみの水の上の咲花のこころ

瀬川富臣

さうさく花めんれ鬼りり

江戸新橋松本清六

世のうさきさくら入御りまろ花

久慈清太郎云々

花と折菊と一念かつき哉

瀬川一馬田太富臣

花城ありて天下一樹のやどり

純正長

或花のよのさす花吸み花

淡路国中津屋

白ふ兵了系中花のこころ

久次

去年此書とてい本丸花や花

苗屋

花の城花よりつき本丸盛

吹白

花の城花よりあり花のえこ

日向

花とゆび多花次もやりい状

京平尾小共取

三有花とちり流るてやま花

尾列公然行

みか来ていゆたえおさじに花衣

一身

抱いもぬ花の核姫やそりれ声

政定

あひんてふよ花とくれわも志願

志願

この春奇花の下とて

雨に親やそとる花の子とて

安齋

花のめをいふと讃て

け花の神代をさうぬむいふ

高き為

親と子や花を母系へのかり橋

清正

懐あつても家此花の鞠は遊

江戸

長夏

花て子おくぬるくいの花の面

良雲

大坂新清水万句才三花

狂うそ

花水あを浮本花魚の二つ

良法

水牛の花乃波ふ家車牛

長花

那智此流や花の白波念慈

同

花乃をよとふるはけよ斎あ

同

花さけいたぬ母白ふかや外

同

まん十の地くあつ花のこ

同

花名や供志く妻此都ハ

同

風のまゝ乃花ハ多即是定
 子ふのつと親ありしをそむの面
 蜜花の蜂乃そむふ花の家
 孫うせて表ひそよむれ面
 花ちと風を本此中の雨乃水
 面ハ親これおとひそ表乃花
 雨露の原よしく花も表十
 むかうさ何とあむる醫志は
 同 同 同 同 同 同 同

とうりかめんがやあつとを
 女花のうき紋をわ若しり
 きけやく実ハ成次才本を花
 一女を花ハ若野のうきと
 そち花もじのうきと
 花やまの心をそむる目乃佛
 作礼而去と笑ゆわはのむの
 同 同 同 同 同 同 同

友重の南のそむの祝
 同

花とあてふ代とをのり
同

古草子に依らざる

花と花のしきとをのり
同

何れとて花のわいれ松を
同

飾に徳安貞ちみ

咲けのしほかまのむきとを
同

まんゆく此紋や野もを
同

六角に花靴もたむけの坊
同

花や志のりの樽のしほ
同

花よりを樽のしほもを
同

むかひちよあけなりとを
同

花あつとあまのしほもを
同

奥てあつとあまのしほ
同

ひらり雲とて

花見せんとあまのしほ
同

余のあまのしほもを
同

嘆花の雲の如くひらく海山

月

花もじまぬまをくまの海雲の

趣

月

色も枝をくま目如くやまむ

趣

月

南無花王花とももれ金雲山

月

舟よゆく方とも花の雲の如

月

東門の大僧正成乃也教は

一夫也花の衣や花の雲

月

花も嘆て我とまらんは花

月

花もさうよまひてよ不動坂

月

花のさうよまひてよ不動坂

月



